

日本音楽教育メディア学会
(JAPANESE MEDIA SOCIETY FOR MUSICAL EDUCATION)
JMSME News Letter

2020.1 vol.10

発行：令和2年1月15日
日本音楽教育メディア学会事務局
〒125-0062 葛飾区青戸5-5-16（林方）
jmsmeoffice@gmail.com

(HP) <http://jmsme.jp/>

謹賀新年

令和二年、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

本会もおかげさまで徐々にではありますが会員が増えつつあり、年二回開催される研究会も年ごとに内容のレベルアップが図られています。これも会員の皆様のご協力ご支援のたまものと感謝いたしております。今後とも皆様の研究活動の充実とともに学会へのご支援ご協力をよろしく願いいたします。

さて社会情勢に目を向ければ、内外ともに多くの不安を抱えている現状があります。国内的には、いじめ、虐待等に加え、発生した多くの災害、また3.11の復興も原発の問題も含め、完全に解決されるに至っていません。対外的には地球温暖化、民族・宗教・思想の対立、核問題等々。多くの明るい話題があった中で、このようなことにも私たちは目を向けていくことが大切だと考えます。

そうして、だからこそ、未来を担う子どもたちを育む「教育」は重要であり必要であります。特に豊かな感性や創造性を育む「音楽教育」が果たす役割は大きいと言えるでしょう。

最後になりましたが、皆様のご健勝と本会の益々の発展、世界の平和を祈念いたしまして、私のご挨拶と致します。

2020年1月 会長 谷中優

日本音楽教育メディア学会 第11回研究会のお知らせ

日時 令和2年2月9日（日）13:00～16:30

会場 葛飾シンフォニーヒルズ 別館2階ビジュアルルーム（京成線 青砥駅下車 徒歩8分）

研究会（口頭発表）（発表20分 質疑応答10分） *非会員のご参加は1000円を頂きます。

- ① 「教材開発と表現についての実践的考察」-創作と演奏の立場から-
谷中優（スタジオM音楽研究所）鈴木由美子（千葉敬愛短期大学）
- ② 「保育者養成における表現指導のあり方を考える」-初年次教育の観点から-
橘和代（有明教育芸術短期大学）松田扶美子（有明教育芸術短期大学）
- ③ 「「イメージを持つこと」の効果と可能性」-ある学生のピアノ演奏指導の事例から-
鎌田千佳（千葉敬愛短期大学）
- *** 休憩 ***
- ④ 「音楽理論学習におけるe-ラーニングの活用」-コースウェアの小テスト使用実践より-
小林田鶴子（神戸女子大学）
- ⑤ 「ピアノ初学者の個人練習の組み立て」
田中功一（立教女学院短期大学）小倉隆一郎（文教大学）辻靖彦（放送大学）

懇親会 17:00～19:00 青砥駅付近

~COLUMN~

「24の調性」

変ロ長調のキャラクターを探ろうというのが、今回のコラムのお題である。

来年はベートーヴェン生誕250年ということで、より多くの彼の作品が演奏されるであろう。ピアノ弾きの私としては、ベートーヴェンのピアノソナタを全曲、とにかく弾くというのが目標であるが、そんな中でひょんなことからベートーヴェンの連弾曲を演奏することが決まった。ベートーヴェンの連弾曲というと、あまり知られていない小さなソナタなどを思い浮かべるのだが、今回、ドイツの某所で演奏する機会に恵まれた曲は「大フーガ」op.133である。これは、弦楽四重奏曲op.130の第6楽章を独立させてできた曲であるが、それを連弾に編曲したものである。

シューベルトのピアノソナタD.960 変ロ長調とモーツァルトのピアノソナタK.333 変ロ長調のキャラクターを比較対照しようとしていた矢先に、なんとこの大フーガも変ロ長調なのである。シューベルトの最後のピアノ作品であるD.960は、彼の人生の最後にふさわしいehrfruchtvoll(畏敬の念に満ちた、恭しい)な作品であるのに対し、モーツァルトのピアノソナタK.333は、彼の最盛期であるlebendig(生き生きとした)で、offen(開放的)な作品である。そして、今回の大フーガとは言えば、晩年のベートーヴェンの作品に共通して漂うfeierlich(荘厳な、厳粛な)な空気を含んでいる。

これらの作品に共通することを見出そうとすると、それは「肯定的」という言葉に置き換えられるのではないかと思う。そして、「身近」であり、「なじみやすい」「やさしさ」と「大きな愛」を感じるのは私だけだろうか。

武蔵野音楽大学 森永美穂子

連載「こどものうた」

「子守歌」－島原の子守唄－

おどみや島原のおどみや島原の梨の木育ちよ
何の梨やら何の梨やら色気しばよしょうかいな
はよねろ泣かんでオロロンバイ
鬼の池の久助どんの連れんこらるバイ
沖のしらぬいに沖のしらぬいに消えては燃えるよ
バテレン祭りの バテレン祭りの
笛や太鼓も 鳴りやんだ
早よ寝ろ泣かんでオロロンバイ
早よ寝ろ泣かんでオロロンバイ

これまでご紹介した3曲の子守歌と異なり、この歌は戦後に創作された「創作子守歌」と言われるものである。旋律は、幼子を寝かしつけるのに口ずさんでいた他の地方の曲をもとにしたもので、江戸後期から昭和初期にかけて中国や、東南アジアの娼館に送られた貧しい家庭のたくさんの少女たち「からゆきさん」を哀れみ、一方では無事成功し帰国した「からゆきさん」の成功をうらやむという、幸せとは言い難い、複雑な心情が背景に絡む歌である。

もの悲しげな旋律は「幸せになりたい」しかし「幸せいっぱいではない。」そんな少女達の心の慰めを描写していると言えるのではないか。

私たちは子守歌というと、子どもが心地よく眠るための安らぎの音楽をイメージしてしまうが、

「心を守る歌」としての子守歌があることも知っておきたい。

帝京科学大学教育人間科学部 飯泉祐美子

♪ 学会トピックス

- 「音楽メディア研究第6巻」の発行が令和2年3月になります。
- 当学会の論集「日本音楽教育メディア研究」はこの度、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が運営する科学技術情報発信・流通総合システム（J-STAGE）に掲載されることが決定いたしました。
- 今年は日本音楽教育メディア学会の役員改選の年となります。詳細は後日お知らせいたしますので、よろしく願い致します。

《会員メッセージ》

二見美千代（千葉敬愛短期大学）

2年ほど前からこちらの研究会に数回参加させて頂いておりましたが、先生方の研究に対する熱心な姿勢に感銘を受けこの度入会させて頂くこととなりました。

現在は、千葉敬愛短期大学にて保育士・幼稚園教諭を目指す学生にリトミックを教えている傍ら、音楽教室にて2歳児から5歳児を対象にリトミックを、また小中学生を対象にピアノを教えています。

最近、駅の構内にピアノが置かれて誰でも自由に演奏できる「駅ピアノ」（通称。以下同じ）が流行しているようで、教室の生徒から「〇〇駅でピアノを弾きました！」という話を聞くようになりました。以前TVでヨーロッパの「駅ピアノ」の映像を見てからその存在は気になっていましたが、ここまで身近なものになっているとは知りませんでした。

調べてみると、「駅ピアノ」だけでなく「ストリートピアノ」「空港ピアノ」（共に通称）など全国的に様々な場所でピアノが設置され、中でも都庁には世界的に有名な画家である草間彌生さんデザインのペイントがされているピアノもあるようです。

思い思いにピアノを弾き、通りがかった人々が足を止めて演奏に耳を傾けるというのはとても素敵な事だと思います。発表会やコンサートなどかしまった場だけでなく、このように生活の中で自然と音楽に触れる機会が増えることで、子供たちにとって「演奏すること」「表現すること」が楽しいと感じてもらえたら嬉しいです。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

《会員メッセージ》

子育てサロン訪問

山口 恵美子（東京福祉大学短期大学部）

この度、学会に入会させていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

埼玉県狭山市で行われている子育てサロン「ヨチヨチ」を訪問した。活動場所は、近隣の集会所で未就園児の親子を対象とし、毎月一回10:00から12:00季節行事、遊びが行われている。目的は、虐待予防、ママ友作り、ママのほっと一息で、事前の参加予約はなく、その日に来た子どもの年齢に合わせて、対応している。

今回の子育てサロン訪問では、参加者のママ友つながりの紹介で母子4組の参加であった。1歳のヨチヨチ歩きのお子さんたちは、この子育てサロンが初めての社会経験の場となった。

乳児保育の授業で学生たちが制作した『手作りミニ絵本』と『いないいないばあっ!』をお子さんたちに見てもらった。まず、お母さんたちにそれぞれ絵本を選んでいただき、数冊ずつ読み聞かせをしていただいた。お子さんたちはママの膝に座り指差ししながら楽しんだ。次に『いないいないばあっ!』をいくつか選んでいただき、代表のママが、演じてお子さんたちを楽しませた。続いて、ママがカラーペンでお子さんの好きなものを紙に描いた触れ合い遊びを楽しんだ。ママが描いていることに興味を持ち、みんなペンを握って描き始めた。白い紙を差し出すと、色を使い分けてグルグルと描き初の作品が出来上がった「お家でお絵描きしたことなかったんですよ」とママ。

その後は、

ボランティアさんの
手作りのおやつタイム。

とっても和やかな
ひと時だった。



会員掲示板

文化庁「市民から文化力」プロジェクト参加事業 令和元年度土曜文化振興財団助成金受取事業

総の国童謡音楽祭 2020
主催/音・音楽フォーラム松戸

日時/2020年3月29日(日)午後2:00開演
場所/松戸市明市民センターホール(3F)
入場料1000円(小学生以下無料)

♪ プログラム ♪
I
総の国 童謡作詞・作曲コンクール表彰式・コンサート
学生の手、一般の手(各部門入賞は5曲以内)

(昨年受賞作品から)
岡田聖「酒のカーニバル」 / 斎藤ステューブ樹重「小さな花と大きな星」

II
「おひるね ろんろん」 斎藤裕子 詞曲
「さっちゃん」、「どうさん」、「ねえ ママ」、「ふるさと」、「おやすみなさい」
「花」、「みかんの花嫁く丘」、その他

【演奏】 歌/鈴木由美子、五原市由美子、山中久恵 ピアノ/鎌田千佳、林麻由美
【音楽学講座委員】 藤井雄一(トランペット奏者)、若林祥子(サクソフーン奏者)
【コンクール審査委員会】 委員長/Syoko STEFANO (ブルガリアの作曲家・指揮者・声楽家・ピアニスト)他

本コンパ・音楽祭は令和元年度土曜文化振興財団の助成により開催しています

<後援/協賛/教育委員会> (申請中)
<ご案内> 明市民センター (JR松戸駅一駅南成徳美術館一上本郷駅下車 徒歩5分)

お問い合わせ/音・音楽フォーラム松戸 (Eメール) yasuk.asaforum@nifty.com

♪ 街で開く小さなコンサート

2020年3月7日(土) 14:00開演 (13:30会場)
会場:茗荷谷ラリール <http://www.lalyre.jp/page2.html>
〒112-0012 東京都東京都文京区大塚 3-21-14
入場料 2000円 / 60席限定 / 要予約
歌:松田扶美子 他

～ CDリリース ♪～

「Airs de Flûte (エールドゥフリユート)」
奏者:ドゥラルベル千保(fl)、黒宮可織(pf)
収録曲:シャミナード『コンチェルティノ』、ルーセル『笛吹きたち』、
ゴーペール『ソナチネ』ほか
発売元:プルクワレーベル
発売予定:2020年3月下旬(予定)
価格:2000円(予定)

「2020 あおばコンサート」

日時:2020年4月19日(日) (時間は未定、マチネ)
会場:千葉市生涯学習センターホール(2F)
料金:500円
主催:2020 あおばコンサート実行委員
後援:千葉市音楽協会
プログラム:シャミナード『コンチェルティノ』、
シューマン『交響的練習曲』ほか

会費納入のお願い

今年度(2019年8月1日～2020年7月31日)の年会費7,000円の納入を、下記のいずれかの振込先をお願いいたします。

《振込先①》 ゆうちよ銀行 10510-91267401
ニホンオンガクキョウイックメディアガッカイ

《振込先②》 みずほ銀行 亀有支店(店番178)
(普)1293675 日本音楽教育メディア学会会長 谷中優

※入会・退会に際しまして、又、会費についてご質問等ございましたら事務局までご相談ください。

事務局だより 明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い致します。ニュースレターVol.10をお届けいたします。原稿をいただきました先生方に感謝申し上げます。

●連絡先、勤務先等の変更があった場合は事務局へご連絡をいただけますようお願い致します。

●研究会のご参加をお待ちしております。ご出欠のお返事は2月2日までに頂きたいとどうぞよろしくお願い致します。また、非会員のご参加もお待ち申し上げます。(恐れ入りますが参加費1,000円を頂きます。)

●今年は役員改選がございます。今後ともどうぞよろしく願ひ致します。

(事務局:飯泉祐美子、鎌田千佳、林麻由美)